

我が町の歴史をたどってみよう

横川の变迁 3

福井 憲二



栗原橋に名を残す栗原紡績(現ダイドーリミテッド)は、栗原イネ氏によって明治12年製織事業を緑町で開始し、長く横川四丁目で操業していました。一昨年まで警視庁第七方面本部・第二機動隊のおかれていたところですが。(現在は、空き地となっており、平成29年12月～平成32年8月までの間、墨田区下水道・駒形幹線工事の出入り口となっています。)

横川四丁目には、昭和18年3月に廃校となった柳元小学校がありました。その跡地は本所工業高校が一時あり、その後、深川商業高校となっていました。現在では、2013年3月に本所警察署が建設され移転してきています。

その北側の四ツ目通り寄りには(旧・墨田区横川四丁目11番)、大正12年の大震災に際して組織された帝国大学救護団が人権法律相談、隣保、教化、労働・児童教育、託児所、軽費診療などの活動を行った隣保施設、帝大(東大)セツルメントがありました。

横川一丁目の日本たばこ産業株式会社(旧専売公社)東京工場は震災後の大正13年10月、富士瓦斯紡績工場の跡地を買収して浅草区南元町(現台東区)から移転し、昭和7年5月から操業しています。

震災後の住宅供給の一つとして政府が大正13年5月財団法人同潤会を設立し、大正15年、五丁目に同潤会柳島アパートも作られました。ユニークな建物でありましたが、老朽化が激しく再開発されました。(平成2年7月準備組合が発足し、85億円かけて平成8年5月に完成しました)

この地域で見過ごせないものに、かつて墨田区内にあった佐々木ガラス(平成14年4月に東洋ガラスと合併し東洋佐々木ガラス㈱となり、日本橋馬喰町に移転)のところで始められたゴム工業のことがあります。日本への生ゴムの輸入は明治12年といわれますが、早くも明治19年に中之郷業平町(現横川三丁目)に土谷日秀三によって、のちの三田土ゴム製造会社(創業明治19年 日本最古のゴム会社)の前身であるゴム製造所が創設され、東京でのゴム工業への先鞭となりました。(三田土ゴム製造会社は、昭和20年5月に昭和ホールディングに吸収合併されました)

横川一丁目の霊山寺は、慶長18年(1613)徳川家康の命を受け、浄土宗関東18檀林の一つとして学寮三十軒を神田駿河台に持って起立し、数か所に移転ののち、元禄元年(1688)現在地に落ち着いたとのこと。

現在も子院として竜興院、徳寿院、霊性院が残っています。霊性院の子育地蔵は「四の目」の縁日でにぎわっています。成島柳北の墓碑のあった(谷中の霊園に移転)本性寺が、北隣に並んでいます。墓域に、狩野元信の供養墓と、江戸狩野表絵師・山下狩野家歴代の墓があり、また、明治26年、本所相生町(現両国四)に没した将棋の名人伊藤宗印の、駒の形をした墓碑もあります。



<柳島児童遊園の中に設置されている銘板
東京帝国大学柳島セツルメント跡>